

SSSV報告

ハノイ医科大学SV報告

歯学科2年 井波 茉子

ハノイの朝は本当におどろくほど早く、朝の8時からプログラムが始まるのは当たり前であるうえに、私たちが留学生として宿泊していた学生寮からしばらく歩き、スケジュールの5分前くらいに大学病院の歯科病棟に到着するころには、病院のロビーは患者さんであふれ、先生方はすでにせわしく動きまわっています。昨夜も夕食に付き合ってくれ、寮の門限ぎりぎりまで面倒をみてくれていたはずの学生たちが、まったく疲れた様子もなく笑顔で話しかけてくれます。ただただ尊敬です。引率の先生や学生に「まだ眠い？」と聞かれるたび、「全然！」と答えていました。自分でもびっくりするくらい元気に答えていたはずなのに、プログラムの最後にいただいた記念品は目覚まし時計でした。

ハノイ医科大学で出会った人たちは皆すごくパワフルで、ひたむきさと優しさにあふれていました。彼らは日々の勉強や仕事に打ち込みながら、各々のミッションに向き合うことをいつでも忘れません。自分たちの文化に造詣が深く、外国の文化に敬意と関心とを惜しみません。たくさんのお話を話しました。一年生の私にとっては、数少ない同級生の学生を除けば全員が「先生」であり「先輩」だったのですが、彼らの明るい人柄のおかげで、語弊をおそれずに言うならば、尊敬できる友人を得たような感覚でした。

ハノイ医科大学で対応をしてくださった学生、先生方、同行してくださった先輩方から多くのことを学び、あらゆる面でずっと助けていただいた2週間でした。5年の遠藤さん、4年の吉田さん

には、コミュニケーションの面でも、歯科の知識や歯科英語の面でも、私にまったく足りなかった技術と経験とを補っていただき、お二人がいなければこんなに素晴らしい時間は過ごせませんでした。改めまして、このような貴重な機会をくださった魚島先生、石田先生をはじめ、今回の派遣でお世話になった全ての方々に、深くお礼を申し上げます。



マルメ大学SSSV報告

歯学科4年 藤 萌 華

今年3月、スウェーデンの最南端の都市マルメにあるマルメ大学への短期留学に参加させていただきました。SSSVに参加するのは1年生の3月にベトナムのハノイ医科大学に行つて以来、2度目となります。研修内容は各科での臨床実習の見学が主で、さらには講義、インプラント手術、PBLの見学、歯内療法学の専門家同士のディスカッションにも参加させていただきました。それらを通して特に印象に残ったことが2つあります。

まず1つは、教育です。マルメ大学歯学部は5年制で、スパイラルカリキュラムという年間を通して知識の繋がりと応用をきかせたプログラムになっており、基礎と臨床のサイクルで段階的にステップアップできるようになっています。そして、最も特徴的なのは1年次から患者さんを受け持つことができるということです。それにより、学生のモチベーションを上げるだけでなく、プログラムを超えた範囲で単純な症例に関わることで知識に幅と深みを持たせることができるとおっしゃっていました。このような座学と臨床実習が並行して行われているカリキュラムはデメリットも考えられるものの、早い段階で患者と触れることは医療従事者としての責任感を育み、点と点を結びつけられるような学習ができるのではないかと感じました。

2つ目はインプラント手術の見学です。スウェーデンがインプラント発祥の地であるということを知っていたため、手術見学は楽しみでした。実際に見学していると1日に何人も老若男女問わずインプラント手術を受けており、インプラント治療は一部保険適用であることが患者さんの選択肢に大きく影響を与えているのだと思いました。

滞在中は、スウェーデンの文化や現地の人々に触れることもできました。スウェーデンではFIKAという、友人や仕事仲間とコーヒーを飲んで休憩する習慣があります。先生もよく「FIKA

にしよう。」とおっしゃってくださいました。このブレイクタイムは相手のことをより知ることができ、集中力回復にも効果的な時間であると感じました。そのためなのか、マルメにはオシャレで美味しいカフェが充実しており、カフェ好きの私にとって魅力的な街でした。

今回の留学を通して学んだことはここに書ききれないくらい多く、私にとって刺激となるものばかりでした。自分の勉強不足も感じることも多く、今後の学習に対する姿勢を改めなくてはいけないと思うきっかけにもなりました。また、マルメ大学で研究していらっしゃる日本人の先生や、マルメ大学の先生、学生と出会い、お話できたことは本当に良かったと思います。最後になりますが、このような機会を与えてくださった魚島先生、石田先生、引率して観光まで連れて行ってくださった前川先生、私の体調を心配しつつも理解し送り出してくれた両親、このような環境を整えてくださった学務の方々に深く感謝いたします。



写真1：ホームパーティーの様子



写真2：左から井川先生ご家族、神野先生、五十嵐理沙さん、園辺悠さん、筆者

チェンマイ大学の短期留学に参加して

口腔生命福祉学科3年 本間利奈

私は2年生の春休み期間、約2週間チェンマイ大学に短期留学をさせていただきました。一緒に参加したメンバーは全体的に学年が低く、低学年向けのプログラムとなっていました。プログラムの内容は主に病院の各科の見学や地域施設の訪問でした。また実際にインプラントの手術を見学させていただき、私にとってとても貴重な体験をすることが出来ました。また、東北大学と岡山大学との合同プログラムで、ワールドカフェというディスカッションをする場が設けられており、他大学の人とも親交を深めることが出来ました。そして勉強だけでなくエレファントキャンプやナイトマーケット、お寺など多くの観光地に連れて行ってもらいました。毎日がとても充実していて10日間があっという間に過ぎていきました。

私が最も興味深かったことは日本とタイの歯科医療従事者の違いでした。日本では当たり前な歯科衛生士がタイでは存在せず、デンタルナースが存在しました。デンタルナースは免許がいらず、2年間専門学校に通うことでなれるそうです。また主に行う仕事としてスクレーピング・簡単な抜歯・充填があり、歯科医師の指示なしに処置することができます。最終日にはこれらについてプレゼンテーションを行い、日本の学生とチェンマイ

大学の教員の方と討論する機会もあり、日本と海外の歯科医療の違いを実感することが出来ました。

私は今まで海外に行ったことがなく、言語が異なる国に行くことにとっても不安がありました。また昨年からの専門の勉強が始まり歯科の知識が少ないことも気がかりでした。しかし、同行した先輩方やチェンマイ大学の学生の方が分かりやすく説明して下さり、たくさんの知識を習得することが出来ました。まだ学習していないことを知ることで今後の勉強のモチベーションが上がりました。現地の方もとても優しく、私が英語をうまく話せない時でも真剣に聞いてくれたり、ジェスチャーも取り入れてくれたり、英語が苦手な私でもたくさんコミュニケーションを取ることが出来ました。

この留学を通して、日本のことだけでなく、世界の歯科の状況も知ることは大切だと思いました。今後広い視野を持って患者に接することが出来る歯科衛生士になりたいです。そして知識の取得だけでなく、コミュニケーション力や英語力も大きく成長できたと感じています。この留学は一生忘れられない経験になりました。この経験は私の自信になり、これからどんなことにも挑戦していきたいです。最後に私たちが留学出来るように携わって下さった新潟大学の先生方、現地で対応して下さいました先生方・学生の方に深く感謝申し上げます。これからも努力していきたいです。本当にありがとうございました。





留学生紹介

A DREAM THAT TURNED TO DESIRE LED ME TO A NEW BEGINNING, A FRESH START !

顎顔面外科学分野 Andrea Salazar

A dream that turned to desire led me to a new beginning, a fresh start ! Listening to the wonders of Japan from my parents made me desire to visit this fascinating country. And when I did, I was so impressed at how this place that I only imagined growing-up was more than what I thought it would be.



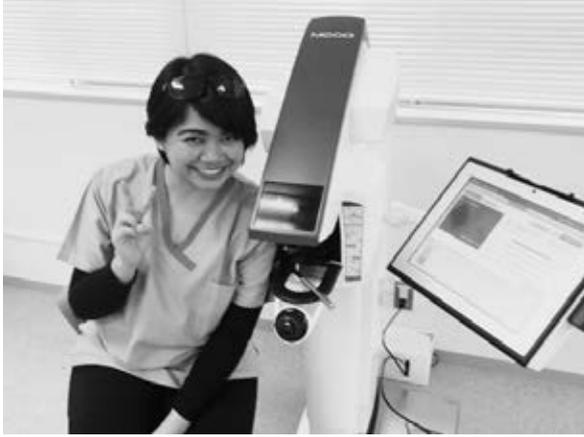
“Do not wait for things to happen, make it happen”, a quote befitting of what I did just to get to this point in my life. I worked doubly hard for my dream to become a reality. I believe that we all have the power to change our lives to the direction that we want.

When I arrived, I was full of enthusiasm and to do list. Everything was surreal, I

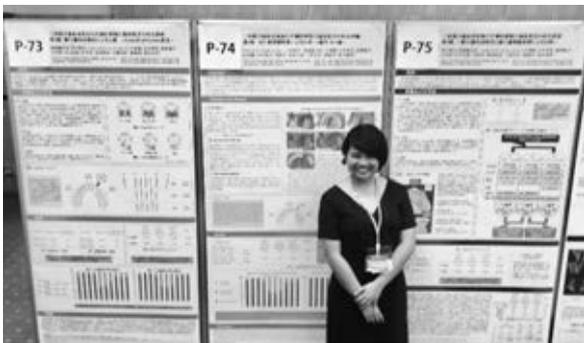
made it ! I had my language lessons on my first semester. I gained new friends and discover different cultures and traditions. Together we studied Nihongo, it was difficult, but since all of us are on the same boat, I was not nervous.



The semester passed and it was now time, to start in my department. I was jittery at first but was overjoyed when they welcomed me with open arms. I am especially lucky for my mentors are all very supportive and kind. I was super impressed by the talent and hand dexterity of my professors, awed by the approaches and instrumentations used during operations. Everything was different and the talent of my mentors are exceptional and above par.



With research I get to exercise critical thinking and observation. We had to brainstorm and read tons of books and researches. It was mind boggling but little by little, I am getting used to it. Surprisingly, I was able to do poster presentation, though nerve wracking but happy that it was over. Hopefully, I will be able to do more presentations with the help of my mentors and maybe publications in the near future.



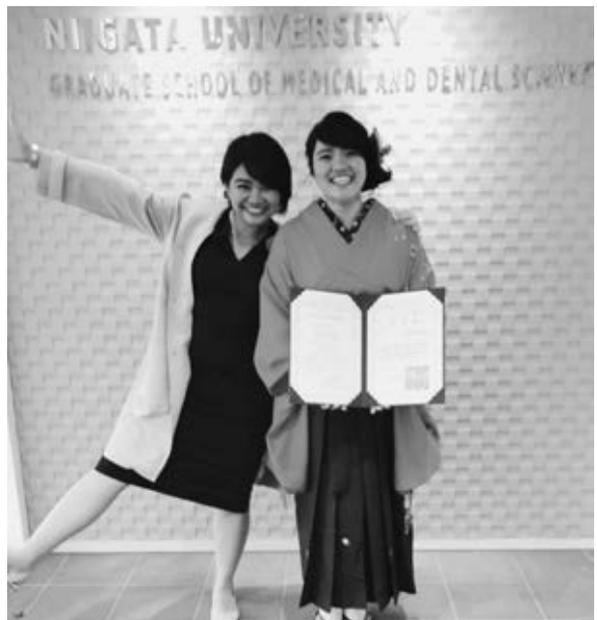
I am also deeply honored to be a part of the people who assist foreign guests whenever there are symposiums, conferences or conventions. As well as short term exchange students in Niigata University from introducing surgical practices and hospital facilities to reinforcing their knowledge about the oral surgery field. I was once shy of talking to other people but the experience honed me to be well rounded, calm and soft spoken. It is a great ex-

perience and a good training ground for me to develop self-confidence.



And lastly, as a person, I have grown by heaps and bounds. The roller coaster of emotions weaving through life here made me who I am right now- strong in character; firmer in decisions and courageous, giving me a positive outlook in life.

I came to Japan with the purpose of making a difference in the world instead it made a difference in me. I know now that for any endeavor, it starts with YOU ! The road to what I want to achieve maybe rocky but by taking it one step at a time, armed with what I have learned in Japan and the Grace of God, I will in time reach my ultimate path.



The goal of my life changed, when I came here Niigata University.

小児歯科学分野 Orakarn Suebsamarn

My name is Orakarn Suebsamarn. I came from Thailand. Although my nickname is Lookkaew, It's quite difficult for Japanese to pronounce my nickname. So everyone here calls me Ke-o (ケーオ). I've graduated from the Faculty of Dentistry, Khon-Kaen University. After graduated, I was working as an instructor at the Institute of Dentist, Suranaree University of Technology, Nakhonratchasima, Thailand. In order to develop my potential, I applied the MEXT scholarship last year. Then I got a chance to be the 1st year postgraduate student in division of Pediatric Dentistry, Graduate School of Medical and Dental Sciences Niigata University.

In my opinion, it's very challenging for the dentist to create the first impression for child patients or manage their behaviors, seeing that it is a starting point to make a good attitude to dentists and encourage them to be good oral health. As mentioned above, this is the reason I would like to be a pedodontist. It means so much to me as being a part of this department. All the staffs are very kind and helpful. I'm really appreciated

Talking about my first year here, I have to learn and practice in the clinic about pediatric treatment knowledge and techniques. Even it's been only 9 months, I've gotten a lot of experience and have opened my eyes and ears. I've seen a lot of patients whom I've seen only in the textbook such as sev-

eral genetic disorder patients. At Niigata University, pedodontists take care not only children, but also special need care patients of all ages. This reminded me to think about the situation in my country. In Thailand, most pedodontists take care only children under 15 years old. Special needs care patients should be followed up by the same dentist since they were children. However, in Thailand, when they become adults, most general practitioners deny giving treatment to them because of the lack of potential in behavioral managements.

Those disregarded patients made the goal in my life changed. After graduated, I would like to be a pedodontist who is able to take care of special need care patients throughout their lives. Therefore, I'm looking forward to learning and practicing how to treat those patients in appropriate ways during my next three years and I'll try my best.



歯学部生の今

口腔生命福祉学科2年 山田麻矢

5月に元号が平成から令和へと代わり、そろそろ平成と令和を書き間違えることが少なくなってきました。今回「歯学部生の今」というテーマで徒然なるままに800文字ほどお付き合い頂きたいと思います。

4月から勉学の拠点を旭町に移して、五十嵐との変化が多々ありました。例えば、五十嵐の購買はキャンパスの真ん中に位置し、2階建てでとても存在感のある大きな建物で、コンビニのように主に食べ物が売っていました。一方で歯学部棟に併設されている購買、通称クワバラは食べ物の数より歯磨剤や歯ブラシ、歯間ブラシ等の口腔ケアグッズの品ぞろえが豊富なことに驚き、歯学部の売店としての特色を感じました。また、五十嵐キャンパスで受けていた教養の授業では自らが主体となって学習を進めるというよりも教授が講義を進めてくださり、生徒はその講義を聴き理解を深めるという受け身で受けるスタイルの講義が多かったです。一方で、旭町キャンパスで4月から始まったPBLテュートリアルという勉強方式では、少人数班に分かれ配布されたシナリオに沿って提示された「事実を確認」し→事実を基にシナリオから「疑問」を抽出し→「仮説」を立て→疑問と仮説を基に「学習課題を設定」し→各自で「自主学习」を進めて、各々で調べたことを「発表」しあい→シナリオに提示された症例に対して

「理解を深めていく」、という生徒の自主性を尊重した学習が活発に行われています。五十嵐キャンパスと旭町キャンパス距離にしては11キロの差がありますが、両キャンパスを共に経験してみて新潟大学はキャンパスごとに個々の魅力が詰まっている個性的な大学であると思いました。

私は弓道部に所属しているのですが、4月に勧誘責任者として仕事をしていました。初めてできるかもしれない後輩に対し期待を膨らませるとともに、入部希望者がいなかったらどうしよう、次の部活の部飯はどうしようなどと常に不安を抱えている1か月間を過ごし、無事5人の1年生が入部してくれたということは何事にも代えがたいほどうれしい事実です。保健学科、歯学部の先輩、後輩もちろん同期とともに弓を弾ける今がとても楽しいです。



3年生になって

口腔生命福祉学科3年 金子由依

歯学部に入學してからあっという間に2年が経ち、今年の春から3年生になりました。そして驚くことに残り数日で前期を終えようとしています。この前まで、遊びの予定を立てたり、昨日のドラマがどうだったなど、たわいもない会話で賑わっていた講義室が、今では実習や就職のこと、国家試験についての会話が飛び交っています。時の流れの速さと就職の身近さに驚きが隠せません。

3年生になって、大きく変わったことと言えば、実習が増えたことです。2年生までは講義が中心で、相互実習が少しあるだけだったのに対し、幼稚園での歯科保健指導や病院実習、保健センターで保健指導を行う実習も控えています。3年生前期の中で特に印象に残っている出来事が幼稚園実習でした。この実習では、みんなで歯磨きの大切さがわかる劇や、クラス別に歯磨き指導を行いました。園児がどこまで理解でき、飽きずに楽しく取り組んでもらえるか考え、指導するのはとても難しく感じました。先生方にアドバイスをいただいて指導案やシナリオを何度も修正し、昼休みや放課後に練習することは大変でしたが、それと同時にみんなでより良いものを作ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。当日、園児が劇に反応してくれたり、「きれいに磨けた！」と口の中を見せてくれたりして、自分たちの指導が相手に良い影響を与えられることへの大きな達成感と喜びを感じることができたと思います。しかし、自分の言葉で説明したり指導することはやはり難しく、戸惑うことも多くて自分の力不足をひしひしと感じました。今回の経験を後期の病院実習や保健センター指導にも生かしていきたいと思っています。

また、3年生になり社会福祉士の資格を取るための福祉に関する講義も始まりました。早期技術演習では、特別養護老人ホームや障害者交流センター、障害者リハビリテーションセンター、児童相談所など実際に社会福祉士が働いている施設を見学しました。福祉に関する知識はほとんどない状態だったため不安でしたが、社会福祉士のイメージや講義だけでは分からない実際の現場の様子や雰囲気を感じ取ることができ、これから福祉について学ぶ意欲が高まりました。福祉の講義では年金制度や児童手当、生活保護など複雑で難しく、自分の知識のなさを感じずにはいられません。しかし最近では講義やPBLなどを通し、少しずつではありますが福祉の面白さを理解できるようになってきました。

大学生生活も折り返し地点を過ぎ、自分たちの将来に不安や焦り等様々な思いを抱えています。さらに4年生になれば病院での臨床実習や福祉現場実習、加えて特論や2つの国家試験など今よりもっと忙しくなります。しかし、今まで共に頑張ってきたみんなと個性豊かな編入生を加えた23人で乗り越えて、残りの大学生活を充実したものにしていきたいと思っています。



歯学部生の今

口腔生命福祉学科 4年 柿崎 麻友子

「歯学部生の今」というテーマのもと恐縮ながら書かせていただきます。私自身、締め切り間近まで追い込まれないと行動に移せない性格であるためこの原稿も締め切り当日の提出となりました。さらに今日はクラス全体での飲み会があるので時間に追われながら書いています。支離滅裂な文章になるとは思いますがご了承ください。

早いもので卒業まで1年を切り、国家試験までも半年ほどになりました。大学生を楽しまなければと謎の使命感に駆られています。日々特論や実習に追われている日々です。実習は病院での臨床実習と福祉実習の2つがあり、臨床実習は早くも折り返しを迎えようとしています。思い返せば実習初日は不安と緊張でいっぱいでした。この環境から解放されたい一心でとにかく時間が過ぎるのを待っていましたが、時計を見ても針が少ししか動いていないことにショックを受け、また時計を見て…の繰り返しでした。今は「もうこんな時間か」と思うほど充実した実習ができています。まだうまくいかないことも多々ありますが、先生方や歯科衛生士や看護師をはじめとする病院のスタッフの方々にご指導をいただき、成長していると実感できるようになりました。本当に感謝しています。

そのような臨床実習が月曜日から木曜日という

こともあり私自身、木曜日は「花金」ならぬ「花木」となっています。一般的に花金とは休日の前日に心置きなくお酒を飲むことを指しますが、木曜日はとりあえず実習お疲れ様、ということで反省会がてら楽しんでいます。(金曜日に講義があります) その楽しみもあり、実習を頑張っているところもあります。

他の学部の同級生はほぼ就職活動が終わり、授業は週一回だけという話をよく聞きます。羨ましいと思うこともありますが、実習や講義があるおかげでクラスの友達と会って他愛もない話ができる日々が楽しいです。卒業まであと少しですが、みんなとの思い出をたくさん作っていかうと思います。



歯学部生の今

歯学科2年 小泉 瑠果

こんにちは！歯学部歯学科二年の小泉瑠果です。二年生になってからは、勉強においても部活動においても一年生の頃から一変しました。

勉強においては、ほとんどが専門科目となり、歯科に関係あることも少しずつ学んでいます。今、講義を受けているものは、CBTや国家試験にも出題される内容であるので、目の前にある試験だけに目を向けずに、CBTや国家試験など、将来的なことにも目を向けながら勉強するように心がけようと頑張っています。また、やはりそれぞれの教科において、勉強する範囲は膨大なので、毎日の予習・復習をコツコツとすることが大切であることが身に染みてわかりました。CBT、国家試験まではまだまだですが、今、勉強していることを長期記憶として覚えておくためには、「〇〇という現象・事象が起こるのは、△△という理由があるからである」という風に理論的に関連づけて覚えることが大事だと思うので、意識し

て勉強していきたいです。

部活動においては、後輩ができたことにより、後輩への指導をしたり、連絡等などの自分の仕事をしっかりと真っ当することなど、先輩としての自覚をしっかりと持つことが大事であることを感じています。私は弓道部に所属しています。一年生のときに比べて、技術面・実力面において大きく成長したと思います。しかし、まだまだ改善すべき点が多くあるので、先輩方からアドバイスをいただき、改善していけるようにますます努力していこうと思います。

このように、二年生になってからは環境の変化により、二年生になり始めの頃は慌ただしく物事に取り組んでいましたが、最近になってやっと慣れてくることができました。これから、更に勉強・部活動両方において忙しくも充実したものになってくると思うので、精一杯の努力をしていこうと思います。



歯学部生の今

歯学科2年 坂上莉奈

入学してから早くも一年が過ぎて、二年生として新たな生活が始まりました。二年生になってからは五十嵐キャンパスでの一年生の時とは生活が大きく変わりました。そのため、二年生になって約三か月が経ち、やっとこの生活に慣れたような気がします。また、一年生の時とは違い、専門的な分野を学ぶことが出来るため、毎日の授業がとても新鮮に感じられます。また、歯学部棟で見かける先輩方の姿にとっても良い刺激を受けています。

私にとって学年が変わり一番変化したと思う点は、勉強面です。専門性の高い講義が多くなり、とても興味深い反面、習得しなければならない事が多く、予習と復習に追われています。また講義中に、国家試験によく出題されるポイントなどを先生方に提示されると、将来受験する国家試験のことを考え、とても身が引き締まります。また、微生物学の授業では、歯科治療をする際に気をつけなければならないことや、少しでも間違ってしまったら患者さんの命さえ奪ってしまうことなどを勉強し、将来立派な歯科医師として患者さんを治療できるようになるためには現在の勉強に専念をし、たくさんの正確な知識を身につけなければならないと強く思いました。

また、個人的にとっても貴重な経験をさせていただいていると思う講義がいくつかあります。それは、骨学と歯学スタディスキルズⅡという講義です。はじめに、骨学という講義では、本物の人骨を使わせていただき勉強させていただいています。このような機会は、とても貴重だと思うので、毎回の講義をしっかりと身のあるようなものにするために予習などをしっかりとして実習に取り組んでいます。

そして、歯学スタディスキルズⅡというのは、一年生の際に行った歯学スタディスキルズⅠの続

きの講義になります。歯学スタディスキルズⅠでは、ExcelやWordなどのパソコンの基礎や、論理的な文の書き方を学びました。そして、二年生になってからの歯学スタディスキルズⅡでは、その得た知識を生かし、「現代社会と歯科医療」というテーマで個々に問題点を見つけ論文を書いています。この講義では、しっかりと自分の主張を軸とした文を作るために反論をもって来たり、データをもって来たりしなければなりません。クラスのみんなも毎回、試行錯誤して悩みながら文章を書いています。この講義で身につけた情報収集力や説得力などが、素晴らしい歯科医師になるために必要だと思うので毎回の授業を大切に、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

二年生では、歯科医学の基礎科目を学んでいるのですが、これはこれからの歯学の勉強の土台となると思うので知識としてしっかりと定着させ、将来に繋げていきたいと思っています。そのために日々の学習をより細かいところまで学んだり、わからない点は先生や友達に質問したりして貪欲に学んでいきたいです。

また、実は二年生になり勉強面以外にも変化した点があります。それは、クラスの団結です。二年生になって二年生の教室ができ、また、五名の編入生が新たなクラスの一員になりました。今までは教室がなかったのですが、教室ができたおかげか毎日顔を合わせて挨拶をするようになり今まであまり話さない人とも仲良くなる事が出来ました。また、五月の体育祭では一年生の時よりも、もっと強い団結力が生まれ最後まで楽しく過ごすことができました。そして、リレーでは一位をとることができ、本当に嬉しく良い思い出となりました。

また、最近テストがいくつかありましたが、仲間たちがいたから乗り越えられた面がいくつか

あります。わからないところを聞いたら快く教えてくれたり、一緒に勉強したりと一人ではできない勉強の仕方ができたと思います。また、朝早くから教室で勉強しているクラスメイトの姿や、授業後に図書館へ向かうクラスメイトの姿が、刺激となり私ももっと勉強しようという気持ちになりました。このような切磋琢磨し合うクラスですが、楽しい時は思い切りふざけるなどとても

盛り上がるクラスです。このクラスメイトたちと、これからも日々成長していきたいと思えます。

また、いつも私たちに丁寧に講義をしてくださる先生方、見守ってくださる学務の皆様から心から感謝をこの場を借りてお伝えしたいと思います。

一生懸命多くのことを習得していこうと思っているのでもっとこれからもよろしくお願いたします。



歯学部生の今

歯学科3年 田中雅之

はじめまして、歯学科3年生の田中雅之と申します。私たちは、2年生を無事に進級し、さらに、新しい仲間も加わって、3年生になりました。今現在、3年生は計49名おり、全ての学年において最も人数が多く、昼休みや実習など、クラスの賑わいが絶えず、非常に明るい学年です。そして、3年生の前期の授業も残すところ、あと2～3週間ほどで終わり、夏休みを迎えようとしています。3年前期を終えるにあたって、私個人の感想は、率直に勉学で多忙を極め、非常にあっという間だったということです。

勉学では、前々から、多くの先生方や先輩方が仰っていた通り、解剖学実習が多忙を極めております。解剖学実習は、その名の通り、ご献体を前に解剖を進めていく実習で、多くの倫理的な問題が飛び交う中で、私たちは、一生の中でも滅多に経験することのできない貴重な経験をさせて頂いております。この実習は、4月中旬頃から始まり、そこから毎週2回実施され、7月の下旬に終了する予定です。私たちは、この実習を受けるにあたって、2年次に解剖学の基礎知識を履修して

実習に臨んでおりますが、いざ実習が始まり、ご献体を前に解剖を進めていくと、私たちが、理解しているであろう基礎知識が二次元的なものに過ぎないことを痛感させられています。さらに、教科書的な要素のみならず、ご献体による個体差という要素が加わることで、三次元的なものに加えて、より複雑性が増しており、実習毎における予習や復習が絶えない日々が続いております。そして、この実習も残すところ数回となり、改めて、この実習に対して感謝の念を示したいと思っております。この実習に際して、私たちに、ご指導およびご教授して下さっている大島先生をはじめとする、多くの先生方や、解剖学実習へのご理解とご協力を了承して下さいのご遺族の方々への感謝の念、そして、ご献体に対して畏敬の念を常に心得て、残りの実習も望んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、3年生の前期も残すところあと僅かですが、勉学や部活動において精一杯頑張っていきたいと思っております。

歯学部生の今

歯学科3年 島田奏子

3年生といえば解剖！というイメージが強いですが、そんな解剖学実習もそろそろ終わりを迎えます。実際の人の体から学ぶことは多く、このような貴重な機会をいただき、大変ありがたく感じています。ただ、3年生の前期の印象深い授業はそれだけではないので、私のお気に入りの授業をご紹介しますと思います。

まず早期臨床実習Ⅱです。この実習では、グループでそれぞれの科の見学をします。現場ではどのような治療が行われているのか、基礎と臨床がどう繋がっているのか、自分の目で見て学ぶことができました。1年生の早期臨床実習Ⅰでも同じような実習をし、あの時はあの時で「歯科医ってこんな仕事してるんだ」となかなかの衝撃を受けたのですが、3年生になり、微生物学や解剖学、組織学や生化学などを学び、ちょっと歯に詳しくなった今、同じ治療の現場を見ても、注目するところが変わりました。消毒薬は何を使ってるのかな、どんな材料で歯を詰めるのかな、歯周病のメ

カニズムってなんだっけ、などと考えながら見学をしました。習った知識が実際に使われていることを確認すると、勉強しておいて良かったなと少し安心します。次にコミュニケーション論Ⅱという英語の授業をご紹介します。これは約10人の生徒と外国人の先生1人が1つのグループになって、授業ごとに決められたテーマについて英語で話し合います。面白い先生が多いので、とても楽しく授業を受けることができています。

最近、他学部の同級生から、そろそろ就活始めるんだ、という話を聞いて、ああ、もうそんな年なんだなと、なんとも言えない気持ちになりました。私も2年半後には緑衣を着て病院に立つんだと想像してみると、あまりにも現実味がなくて、なんだか不安になってしまいます。とはいえ、2年半後は必ずやってくるので、その時に自分が困らないように、患者さんにより良い医療を提供できるように、とりあえず今学ぶべきことを丁寧に勉強しておこうと思います。



歯学部生の今

歯学科4年 野口雅史

6年間の学生生活も半分が終わりました。学年が上がるにつれて、時間の経過をととても早く感じます。2、3年生で学んだこともつい昨日覚えたような気もしますし、ずいぶん昔のことのような気もします。また、4年生になると、学年集会や講義の中でCBT、国試について聞く機会が増え、時に漠然とした不安に駆られながら日々過ごしています。

2、3年生の講義は基礎科目中心でしたが、3年後期からは臨床系の実習も始まり、現在は全部床義歯の実習を行っています。実習は全てが初めての経験であり、失敗を繰り返し、くじけそうになることもあります。失敗から学ぶこともたくさんあり、私にとってはとても充実した時間となっています。実習を通して感じることは、講義だけではイメージできず、理解しにくかったことも、実際に触れたり、作ったりすることで理解が深まるということです。講義や教科書で学んだ治療や製作の流れ、目的や用途などの知識が実習の中で点と点がつながるように理解することができます。ただし、実習を真の勉強の場とするには予

習が重要です。小学生のようなことを言うようですが、予習をしていかなければ、自分がやるべきことが何なのか分からず、実習に全くついていくことができません。自分が何をやっているのかわからないまま、失敗をしても何も学ぶことはできません。予習をすることで、臨床に上がるための技術やノウハウを頭と体に身に付けることができると感じています。

学生生活も折り返しを迎え、順調に進級出来れば、来年にはCBT、再来年には国試があります。今、学んでいることが結果に直結していきます。試験にパスすることが最終目標ではありませんが、一つずつステップをクリアしていくために、毎回の講義、実習で多くのことを学び、4年生の一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

初めての執筆のため、ずいぶんまじめな文章になってしまいましたが、勉強漬けの5、6年で頭がおかしくならないように（笑）、バドミントン、ゴルフ、飲み会、勉強と同じくらいしっかり遊んでいます！



歯学部生の今

歯学科4年 井村 真美

こんにちは。歯学科4年の井村真美です。今年の春休み、無事に進級できた私たちは歯学科6年間の折り返しを迎えました。まだ残り3年もあるのか、もう残り3年しかないのか、人によって捉え方は様々だと思いますが、今までの3年と比べて、これからの3年はより濃く大変な3年になってくることは間違いありません。

私たちの学年からカリキュラムが変わり、3年生の後期から実習がスタートしました。去年の後期はクラウンブリッジという、歯に入れる詰め物を作ったり、それを被せられる形に歯を形成する実習を、今年の前期は入れ歯を作る実習をしています。週に1回、朝の10時から夕方の4時まで、休み時間を返上してぶっ通しで行う実習。予習をして挑んでも、うまくいかず、予定内に終わらない実習に、気力も体力も削られていく一方です。時間内に終わらせることが大事だと頭では分かっているけど、せっかくなら綺麗に作りたいというこだわりと、その気持ちについていけない技術力のせいで、時間がいくらあっても足りません。知識不足のせいで、最終形態に影響する部分としない部分のの区別がついていないために、時間を余計に使ってしまっている気がします。

後期からはさらに実習が増え、今よりもっと忙しくなると思います。限られた時間の中で自分の納得いくものが作れるよう、技術と知識を磨いていこうと思います。

また、4年生は勉強だけでなく、部活でも幹部学年として重要な学年です。クラスでもたくさんの人が幹部として様々な部活を引っ張っています。私も、2つの部活に所属させていただいていますが、そのうちの1つ、NEXUSで幹部を務めさせていただくこととなりました。海外の歯学部への留学や、留学生の対応を行なっているNEXUSでは、今年もたくさんの留学生を迎える他、新たな取り組みとして医学部との活動も行うこととなりました。土台作りは大変だと思いますが、みんなで力を合わせて作っていきます。医歯学合同の軟式テニス部では、今年保険学科の同期が卒業します。新体制となる秋の大会では、後輩たちを引っ張っていけるような活躍を見せられるよう頑張っていきたいです。



歯学部生の今

歯学科5年 柏原佳来

新潟大学での5年目が始まりました。入学当時はあまり実感が湧きませんでした。実習に追われる日々を過ごしていると歯科医師になることに気が引き締まる思いがします。さて、「歯学部生の今」ということで学校生活のことについて書かせていただきます。

5年生で一番のウェイトを占めるのはやはり実習だと思います。一つ目が様々な疾患を再現した模型を使う総合模型実習です。口腔内を一単位として模型の疾患にどういった方法で、どういう順番で治療をしていくか計画を立て実習を行なっていきます。要領が悪く不器用なので苦戦することが多いですが、臨床実習に繋がる大事な実習なので気を引き締めて取り組みたいと思います。もう一つが各診療科を回るポリクリです。模型に対して実習もありますがクラスメイトとの相互実習も多く含まれています。治療説明や問診を相互にしたり、印象を取り合うなどをするのですが実際の患者さんに分かりやすい言葉を使う、患者さんに不快感を与えない様にするなど今までの実習ではあまり気をかけられていなかったことを実感しました。10月に始まる臨床実習に向け患者さんへの気配りを心がけていきたいです。

臨床実習前の8、9月にはCBT、OSCEがあります。今までに学んできた基礎から臨床までの集大成を試されるテストですが先生方からは8割切ると国試が怪しくなると脅されながら、時には

教室で友達と問題を出し合う、教え合うなどして知識を深めていっています。下らない話で盛り上がることも多々ありますが…

実習やテスト勉強で大変な5年生ですが部活が良い息抜きにもなっています。歯学部の硬式テニス部と医学科合同のダンス部に入っていてCBTの勉強が間に合わないと嘆きながらも週4で部活動を楽しませてもらっています笑。

5年生になり医局説明会などに行かせていただくことについて考えたりもしますがまずは目の前のCBT、OSCEそして臨床実習に向けて日々の実習、勉強に精進して取り組んでいきたいと思っています。



歯学部生の今

歯学科5年 米山実花

はじめまして。歯学科5年の米山実花です。

この原稿を書かせていただいているのは7月頃なので、5年生になってから約3か月経っております。あれ、もうこんな時期…そうです、1か月後にはCBTが迫っています。みんなで問題を出し合ったり、面白い語呂を言い合ったりと学校で勉強していると耳が2つだけでは追いつけないくらいの知識が飛び交っている日々です。お互いを支えあいながら、時には闘争心を燃やしながら頑張っております。

5年生で特徴的な授業は、やはり、総合模型実習とポリクリでしょうか。総合模型実習はこれまでの模型実習とは異なり、自分で治療内容を決めて進めてきます。なので、隣の人とやっていることも最終的な製作物も違います。手順が分からなくなって隣の人の顔を覗いてフムフムだなんてしてられません。実際に主治医になった気持ちで、身が引き締まります。また、ポリクリではグループごとに各科を周って課せられたミッションをこなしていきます。今までの実習はマネキンが相手で、実際の粘膜であったり、唾液であったりは体験することができませんでした。時には顔中印象材まみれにしてしまうことだってありました。一方で、ポリクリでは相互実習が多く、経験値がかなり上がります。マネキンの実習でも気を付けなくてはいいませんが、友人の顔を印象材まみれにすることなんてできません。器具の扱いに不慣れで

痛い思いをさせてしまうこともありますが、お互いにアドバイスし合って技術を習得しています。「ポリクリ大変ですか？」と後輩に聞かれることがあります。とても楽しいです。今までの実習ではできなかったこと、体験できなかったこと、知らなかったことが沢山あってわくわくします。

さて、私たち51期は「真面目で大人しい学年」と言われているようですが、この場を借りて訂正したいと思います。「コンビニ行く人ー」と誰かが声をかければ5、6人でぞろぞろと行くのは当たり前。お昼時間にはあちらこちらから笑い声が聞こえてきますし、実習中なんてたまに奇声が聞こえてきます。少し誇張してしまった部分もありますが、とにかく、楽しく、明るい学年です。このメンバーの一員でいられて本当に良かったと思いますし、これから先の苦難もみんなで乗り越えていきたいと思っています。



歯学部生の今

歯学科6年 川田里美

臨床実習も3分の2が終わり、私たち50期生もとうとう後輩への引き継ぎが見えてきました。

先輩から引き継いだときは、右も左も分からず、不安でたまらない毎日でした。友人たちと臨床実習ガイドブックを片手に、先輩から引き継いだ内容を確認し合ったことを、今でも鮮明に覚えています。毎日、臨床実習の夢を見るほどに緊張していました。

そんな私たちも、当初と比べると診療に慣れはじめ、以前より患者さんと向き合う余裕が出てきたように思います。以前は、診療手技やレポートの内容を相互に確認し合う事が多くありましたが、今は技工室内で治療方針や治療内容を相談し、検討し合う姿が見えるようになってきました。

技工室での毎日は、真面目に仕事をする半面、賑やかで笑いが絶えません。誰かが旅行や留学に行くとき必ず、1番後ろの使用していない机の上にお土産を置いてくれます。診療や係でお世話になれば、お菓子の応酬があります。私たち50期はそうのように楽しく過ごしています。

臨床実習では、教科書だけでは学べないことが多く、新しい知識や技術を吸収しています。それと同時に、まだまだ未熟であり、立派な歯科医師となるには、より多くを学ばなければならないと感じます。特に、患者さんの主訴に対し検査結果から診断を下し、治療計画を立てる時に未熟さを強く感じます。

私が患者さんを診させて頂いて感じたことは、

臨床実習は、将来自分がどのような歯科医師になりたいのか想像し、そのために今何をすべきかを考える貴重な機会であるということです。

このような貴重な機会を与えて下さった、優しく広い心を持ち、私たちの実習に協力して下さる患者さんと、時に厳しく私たちをより良い歯科医師へと育てようと尽力して下さる先生方、この他にも関係する沢山の方々に感謝しています。

残りの臨床実習もその先の国家試験も、50期生全員で一致団結して臨み、全員で立派な歯科医師になりたいです。



歯学部生の今

歯学科6年 滝澤史雄

2014年に新潟大学に入学して最高学年になるまでであったという間でした。今、私達6年生は学部学生としての最後の夏を迎えています。「歯学部生の今」が今回のテーマということなので、現在佳境に入っている臨床実習について書かせて頂こうと思います。

5年生の秋から始まった臨床実習は新潟大学歯学総合病院で行われています。私達学生が主に行う事は患者様の治療及びそのアシスト、各専門診療科での実習、受付での患者様への対応、予診と呼ばれる初診患者様のご案内のお手伝いです。掲載させて頂いた写真は総合診療部の先生、研修医の先生の下でその予診を行っている場面になります。

様々な実習を行い、勉強させて頂いておりますがやはり大きなウェイトを占めるのは患者様の診療です。一口に診療といってもその内容は様々

で、歯磨き指導や虫歯治療から歯茎の治療、被せ物、入れ歯、抜歯に至るまで各診療科の先生のご指示のもとで治療をさせて頂いています。学生がここまで参加できる臨床実習は全国でも少なく、それは協力して下さっている患者様と各診療科の先生方、スタッフの方々のおかげです。実習期間も残り少なくなってきましたが恵まれた環境に日々感謝して過ごしたいと思います。

そんな最近周りのみんなが意識し始めているのが国家試験です。私達が受験する第113回歯科医師国家試験は来年の2月初めに行われます。毎日の実習と両立しながら少しずつ準備を進めていますが、今のペースではとても間に合う気がしませんが、去年受けた共用試験の対策を一緒にしていた仲間ともまた集まって勉強をし始めました。もうすぐ始まる学生最後の夏休みは勉強に明け暮れることになりそうです…。

